

【表紙】 横須賀長浦港に停泊中の防衛庁警備艦“はるかぜ”(手前)と“あさかぜ”(昭和32年7月24日撮影)
写真撮影ならびに提供: 堀元美

この国産と米国製の両艦を比較してみるといろいろ面白い相異が見られる。両者とも排水量はほとんど同じであるが、国産の“はるかぜ”の方が乾舷も上部構造もうんと低く造られている。これは復原性を重視した結果である。国産艦のマストの頭丈なのは旧海軍以来の伝統で、これはマストに対する震動防止を考慮しているためである。米国製の“あさかぜ”の橋樑と見比べてみると両者の差異がよく分る。ただしマストの低いのはレーダーの機能には不利である。艦橋の窓が国産艦は角窓、米国製は丸窓となっているのも、伝統的な違いの1つといえよう。大砲は両方とも同じものである。

写真頁

戦艦“日向”の前橋および煙突付近 堀元美画 4
世界の艦艇 5
魚雷艇7号, くす, つばめ, ロイヤリスト
思い出の日本戦艦 写真提供ならびに解説: 福井静夫 8
安芸, 河内
鉄道連絡船の回想断片 解説: 山高五郎 10
巫庭丸, うめが香丸, 昌慶丸, 徳寿丸
終戦後の日本海軍艦艇(2) 14
スクラップのため日本に着いた“モレノ” 19
シップ・フォト・ニュース 21
回想の豪華船 24
英国の誘導弾艦 解説: 堀元美 27

本文記事

【時事小片】 原子力と商船 田中正 29
海戦史を漁る(6) 北岬沖海戦 酒井三千生 30
オランダ新鋭駆逐艦フリースランド級について 堀元美 38
世界の船会社(6) P.&O.ライン 木村八郎 40
ブック・ガイド 45
潜水艦—その回顧と展望—(6) 堀元美 46
艦船ニュース 55
続・軍艦の美について 浅井啓一郎 56
戦後のわが海軍—終戦時残存艦艇とその帰趨—(2) 福井静夫 60
航空母艦“鳳翔”と船体動揺安定機 永村清 68
防空巡洋艦について 福井静夫 71
列国海軍の現勢 その6 タイ海軍 木俣滋郎 72
模型の作り方(第6回 米客船コンスティテューション号) 柳原良平 75
出版協同PRの頁 78
続者交換室 79
編集後記 80

昔の帆前船の美しい橋や帆桁が、海に憧れるものにとって、限りない郷愁を誘うのと同様に、太平洋戦争までの主力艦の重厚な構成美もわれわれの愛着措く能わぬものの一つである。ことに日本の主力艦は、その砲術と光学指揮装置の著しい発展によって、独特の壮観を示していた。

このスケッチは昭和13年7月、佐世保に泊中の“日向”の煙突を取囲む110センチ探照灯台を中心に、第3砲塔、前橋楼等の偉容に引きつけられて、事務用の青鉛筆を走らせたもので、筆者は当時“日向”乗組みだった。

視覚偏重の射撃指揮技術は、やがて電波測的の指揮装置の前に没落の運命にあった。いまでは主力艦のいかめしい橋楼も中世紀の城砦のように懐古的な美的鑑賞の対象でしかないかも知れないが、大艦巨砲時代の一つの極限にまで達したその構成美は、船舶美学の歴史に特殊な記録をとどめるものであろう。

限りなき上昇 (CEILING UNLIMITED) ロイド・モリス共著 B6・344頁
ケンダル・スミス 価350円
中村威 千30円

【目次】
第1部 航空時代の黎明
1 歓迎されなかつた奇蹟
2 発見のための教育
3 冒険と信念
4 世界への道
第2部 飛翔の試み
1 飛行機は浮揚できる
2 雛の巣
3 鳥人の先覚者達
4 暗雲と暴風
第3部 空の戦い
1 第4の兵器
2 翼ある戦士たち
3 パイロットの苦境
4 翼なき勝利
5 辱しめられた予言者
第4部 発展の時代
1 より速く、より速く、より高く
2 航空郵便
3 リンドバードとその頃の人々
5 高空開拓者の帝国
5 飛行機の実用化
第5部 第2次世界大戦とその後
1 航空旅行は成人した
2 驚には翼が要る
3 驚は抵抗する
4 新しい出発
5 これからについて
口絵 32頁

現代の軍艦(第2次大戦以後に
おける艦艇の進歩) 堀元美著 価360円 千30円
造艦回想 永村清著 価350円 千30円
日本の軍艦(わが造艦技術の発
達と艦艇の変遷) 福井静夫著 価370円 千30円
ソナー感度あり(THE GOOD
SHEPHERD) C.S.フォレスター著
吉田俊雄訳 価230円 千20円

東京都文京区小石川町1の1 株式会社 出版協同社 振替東京26555番 電話小石川(92)3318番

海上自衛隊

全艦艇と航空機集

海上自衛新聞で初め
て可能な決定版!

本の体裁 B5判, 横組み, 約100ページ,
アート紙を使用
写真 代表的艦艇・航空機は横形のほか
正面その他の角度のものも掲載
要目・資料 海上幕僚監部発表の公表要目, 10
月1日現在就役のものを掲載

目下発売中

【価格】300円, 送料40円

海上自衛新聞は海上自衛隊のことな
ら何んでも判る唯一の部内紙です。
六カ月 350円 送共
(旬刊・タブロイド)

海上自衛新聞社
東京都港区芝琴平町34
電話(50)9200番
振替東京52543番